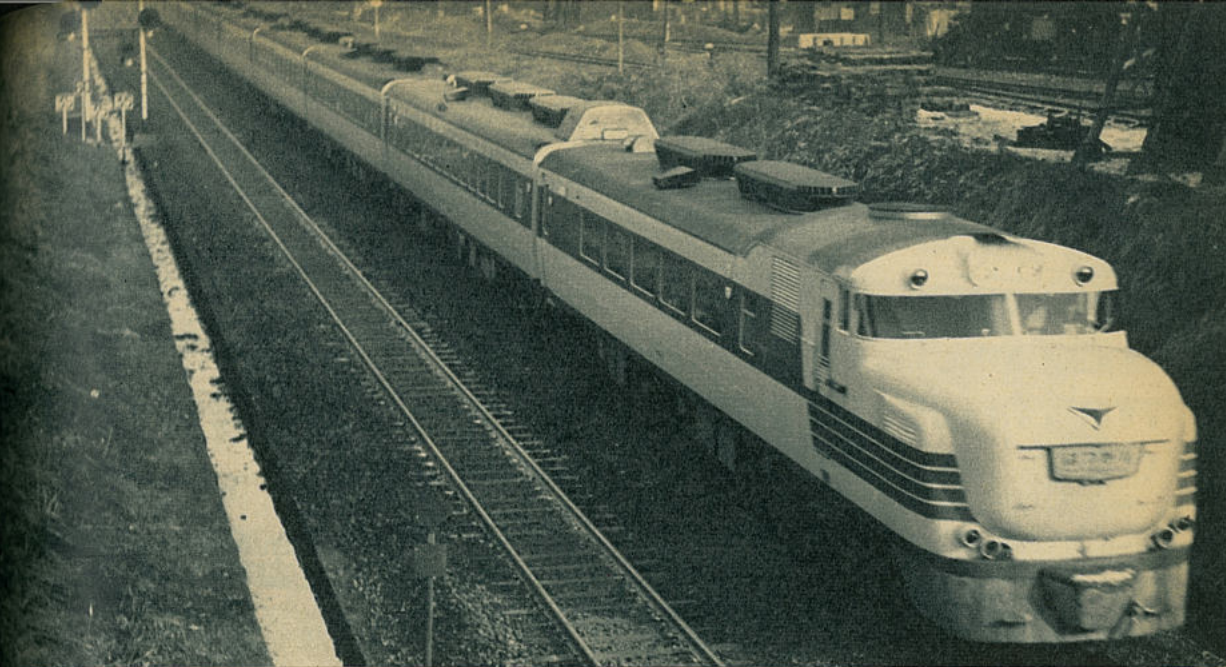
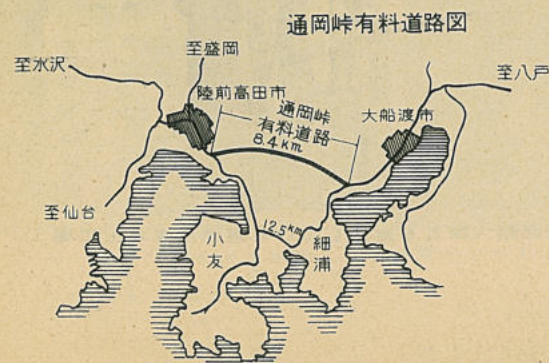


整備される交通網



本県初の仙人有料道路の完成は、産業経済の発展に大きな役割を果たしている 写真下はその管理事務所

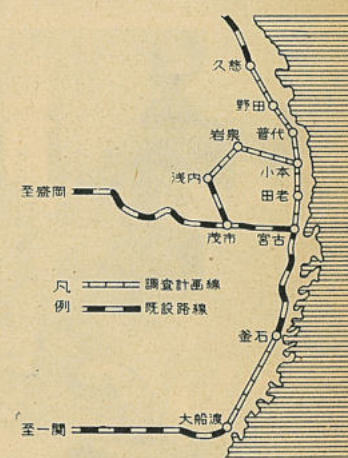


複線・電化工事がすすめられ、飛躍的な輸送力の増強が期されている



バイパス道路第1号が一級国道に完成した ー花巻ー

三陸縦貫鉄道調査線



産業を振興させるために、輸送力の増強は欠くことのできないものである。

まず道路では、1級国道4号線の改良工事や舗装工事が進められ、花巻市にバイパス道路第1号が完成した。

2級国道では、昭和37年度完成の大船渡～本荘線、40年度完成の秋田～盛岡線、宮古～盛岡線、八戸～仙台線の工事がいそがれている。

また、有料道路は、仙人有料道路の完成に引き続き二つ目のものとして、通岡峠有料道路が、昭和38年度完成を期して工事が進められている。これが完成すると大船渡市～陸前高田市間は約30分以上の短縮となる。

鉄道では、東北本線の複線化が進められている一方、昭和36年11月から仙台～盛岡間183.6キロメートルの電化工事の着工を見た。さらに久慈市、宮古市、岩泉町を結ぶ三陸縦貫鉄道が同年7月、調査線に編入された。これらが完成の晩にはその輸送力は現在の数倍に増強され、産業開発と経済交易の高度な発達に期待される。



総工費3億5千万円で、昭和38年度完成をめざして花巻空港も着工された